



WSISフォーラム2018の結果概要

総務省 国政戦略局 国際政策課 おさない ゆうた
小山内 勇太



1. 概要

2018年3月19日から23日にかけて、WSIS (World Summit on the Information Society: 世界情報社会サミット) フォーラム2018がスイス (ジュネーブ) にて開催された。

WSISフォーラムは、WSISアクションラインの進捗報告・情報交換等を行うことを目的として、アクションラインのファシリテーターであるITU (国際電気通信連合) がUNESCO (国連教育科学文化機関)、UNCTAD (国連貿易開発会議)、UNDP (国連開発計画) との共催により、毎年開催しており、各国政府・国連機関のみならず、全てのステークホルダーが参加可能である。

本年のWSISフォーラムのテーマは「情報知識社会の構築に向けたICT活用」であり、各国政府・企業・市民社会・学術界等から140か国2,500名以上が参加した。また、150以上のテーマによるワークショップ及び30以上の展示が行われ、各国で取り組んでいるプロジェクトの紹介、WSISアクションライン及びSDGs達成への道程等について意見交換が行われた。

3月20日及び21日の2日間は、各国政府・国連機関・企業・市民社会・学術界から閣僚級、大使、CEO等のハイレベルが参加するハイレベルトラックが開催され、日本からは富永総務審議官が参加した。

2. オープニング・セグメント

3月20日に開催された開会式では、アントニオ・グテーレス国連事務総長からのビデオメッセージ、共催機関、国連機関 (ITU、UNCTAD、UNESCO、WTO、世界銀行グループ等) の代表者からの挨拶並びにWSISフォーラムの議長及びハイレベルトラックのファシリテーターの指名が行われた。WSISフォーラムの議長には、アラブ首長国連邦電気通信規制局のH.E. Eng. Majed Sultan Al Mesmar氏が選任された。

日本は、続いて行われた、スポンサーからのハイレベルを招いてのダイアログ「WSIS実施のためのマルチステークホルダー・パートナーシップ」に参加。富永総務審議官より、今年のWSISフォーラムのテーマである「情報知識社会の構築に向けたICT活用」のためには、ICTへのアクセス確保、



写真1. 開会式の様子

情報の自由な流通が優先事項であるとし、日本の取組みである「質の高いインフラ・イニシアティブ」を紹介するとともに、マルチステークホルダーとの連携強化の重要性を訴えた。

なお、同ダイアログに参加していたルワンダからは自国の取組み (4GLTEが国民の95%をカバー) 及び5月のトランスフォーラムアフリカの紹介、オマーン・ポーランドからは若者・女児向け教育の重要性、IEEEからはAIの活用及びそれに伴う課題について発言がなされた。

3. ハイレベル・ポリシーセッション

昨年に引き続き、各国政府・国連機関・企業・市民社会・学術界からのハイレベルによって個別に設定されたテーマについて意見交換を行うハイレベル・ポリシーセッションが開催された。セッションのテーマは以下のとおり。

- ① WSISアクションラインと2030アジェンダ
- ② デジタルデバイドの解消
- ③ 環境整備
- ④ 情報と知識へのアクセス
- ⑤ WSISアクションラインと2030アジェンダ/開発のためのファイナンスとICTの役割
- ⑥ ICT利用における信頼性とセキュリティの確立
- ⑦ 包括性: 全ての人の情報・知識へのアクセス
- ⑧ ICTアプリケーションとサービス
- ⑨ ジェンダー主流化
- ⑩ デジタルエコノミーと貿易



⑪知識社会、人材育成、eラーニング/メディア

日本からは、富永総務審議官が、3月20日開催されたデジタルデバイドの解消に関するセッションに参加した。日本の競争政策による料金低廉化及び高いインターネットカバー率を紹介するとともに、デジタルデバイド解消には各国の事情に合わせた取組みが効果的であり、また政府だけでなく民間企業の役割が重要であると述べた。さらに、単につなげるだけでなく、今後のデジタル・トランスフォーメーションを考慮し、長期的観点から大容量のバックボーン・ネットワークへの効率的投資の必要性を強調した。

全体としては、デジタルデバイドを巡る環境は変化してお



■写真2. 発言を行う富永総務審議官

り、インフラ整備も引き続き重要な課題であるが、能力開発、手頃な価格（機器・サービス）、各世代・地域に合わせたコンテンツ、サービス及びビッグデータ活用等の重要性がハイライトされた。

4. 閣僚級ラウンドテーブル

3月21日には、各国政府の閣僚級のみが参加可能な閣僚級ラウンドテーブルが開催された。「2025年に向けた機会、トレンド、課題」というテーマで開催され、25か国*が参加。各国からICTに関する自国施策等が紹介され、コネクティビティ、キャパシティビルディング、個人情報保護等が課題として挙げられた。トルコからはテロの脅威、デジタルデバイドが課題として言及された。パキスタンからは3つの提言として、①全ての国へのユニバーサル基金設立の必要性、②ICT教育の重要性、③今後の5G時代の影響が紹介された。

5. その他

日本はWSISフォーラム2018にスポンサーシップを提供しており、ITU主催のWSISフォーラム2018レセプションにて、感謝状を受け取った。

(参考) 下記URLから会合結果文書をダウンロード可能
<https://www.itu.int/net4/wsis/forum/2018/>



■写真3. WSISフォーラム2018レセプションにて

* UAE:副議長、アフガニスタン、アゼルバイジャン、ベニン、ブータン、ブラジル、コロンビア、ガンビア、ガボン、ジョージア、ガーナ、インド、イラン、マリ、モーリシャス、オマーン、パキスタン、ポーランド、セルビア、ルワンダ、ルーマニア、トルコ、イエメン、セネガル、日本